

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400224
法人名	(有)介護支援サ - ビスしろもと
事業所名	グル - プホ - ム・シオンの家
所在地	上浮穴郡久万高原町上野尻甲 5 3 5
自己評価作成日	平成28年5月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>環境的には四季折々の風景が庭から見える所に位置し、広い庭には縁側、花壇、菜園もあり、利用者や御家族からとても「家庭的」と喜ばれている。一人1人のレベルに応じた普通の生活が送れることを目標にそして、ここに入居してよかったと思ってもらえるようなケアを行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は、日常会話の中で利用者の行きたいところを把握し、希望に応じて外出できるよう支援している。「道後めぐりたい」と希望した方には、長時間外出できるよう、又、歩行練習のために普段から散歩や外出の機会を多く持った。一日行程で計画を立て、当日は商店街や道後温泉本館を見学したり、坊ちゃん列車にも乗って楽しめるよう支援した。高知県の坂本龍馬の銅像を見に行ったり、しまなみ海道まで遠出のドライブにも行けるよう支援している。毎年恒例になっている近くの集会所でのお花見時には、握りずしを用意して皆で楽しんだ。 自宅に帰って庭の花を摘んだり、池の鯉の様子を確認できるよう、職員が付き添い支援するケースがある。盆や彼岸等、年数回、墓参りができるよう支援しているケースがある。週一回、手作りしたおかず持参で来訪する家族があり、居室で一緒に食事できるよう支援している。利用者は持参したものを食べ、家族は利用者用の食事を食べて過ごすようだ。利用者には、「明日来ますよ」等と伝えて、楽しみに待てるよう支援している。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者は開設当初より勤務しておりホームの理念を充分理解、実践している。当初からの職員もおり、今後さらに経営者・管理者・全職員で同じ方向を向いて取り組み、ケアの質向上を目指していく。毎朝の申し送り時に職員全員に法人の理念を唱和している。	
			(外部評価) 事業所理念は、開設時に作成した「やさしい目 やさしい手 主役はお年寄り」を継続して掲げており、皆の目につく玄関前に掲示している。月1回のカンファレンス時、法人代表は、理念のもと想いを話しており、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的とは云えないが毎月開催される軽トラ市や町の行事、くまっ子見守り隊を実施したり近所の幼稚園の行事にも声をかけてもらいできるだけ参加して地元の方々との交流に努めている。今年は8月に会社全体で夏祭りを行う予定にしている。	
			(外部評価) 毎週1回、見守り隊ベストを着用し、小学生の下校の見守り活動を行っている。保育園、幼稚園との交流や中学生の職場体験の受け入れ等も行い、利用者が地域の方々と交流できるよう取り組んでいる。今年8月に行う予定の夏祭りは、五神太鼓や津軽三味線で地域の方や家族等も一緒に楽しめるよう企画している。又、子どもたちも楽しめるよう、利用者と一緒にゲームの準備をすすめている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 法人全体で、講師を依頼し関係者や地域の方々を対象にした「認知症介護」に関する講演会の開催や、中学生の職場体験実習生の受け入れを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) ホームの近況や利用者・職員の異動等の報告や運営推進会議委員にも敬老会や避難訓練・消火訓練へ参加して頂き、取り組み状況を見て頂いている。今後、もっといろいろな立場の方に働きかけて出された意見をサービス向上に活かしていく。</p> <p>(外部評価) 会議は、系列事業所と合同で行っており、老人会の方や民生委員、家族、利用者等が参加している。毎回テーマを決めて行っており、避難訓練や講師を招いての講演会、相互研修の報告等も行っている。昼食会を行った際には、地区の老人会の方から「山菜や野菜が、びっくりするほど美味しい料理になっている。皆さん幸せですね」と感想があった。家族には毎回、会議案内を行っているが、高齢や県外在住の理由により参加が難しいようだ。</p>	<p>今後は、「看取り」をテーマに挙げて、参加者に意見を聞くような機会を予定している。さらに、今後も、地域の方達とのつながりづくりに会議を活かしてほしい。又、サービス評価の結果についても報告して、今後の取り組みのモニターをしてもらってはどうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 町が主催する研修会にできるだけ出席し、勉強させてもらった情報共有を図っている。福祉課や包括から運営推進会議には必ず出席して頂いており協力が得られている。ケア会議にもなるべく出席しているようにしている。職員も交代で出席できるようにしていきたい。</p> <p>(外部評価) 行政担当者に困難事例の報告や相談を行い、利用者が適切なサービスを受けられるよう、連携して取り組んでいる。運営推進会議時、介護保険サービスの利用料金に関する説明をもらったこともある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は人権侵害にあたることを職員は認識している。身体や言葉の拘束だけでなく、主治医と相談しながら薬での拘束にも気をつけて取り組んでいる。現在1名の方がミトン型手を使用しているが日中はなるべく職員が見守りをして身体拘束廃止に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 玄関は施錠しておらず、敷地内の畑に出て野菜の世話や花の手入れをする方もいる。転倒の危険のある方には、ベッドの足元にセンサーマットを敷いて対応している。身体を掻きむしったり、不潔行為のある方については、日中はこま目に見守りを行い、夜間は家族や医師と相談して、現在はミトンを付け対処している。現状が常態化しないように、今後も定期的な話し合いを行ってほしい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 代表者・管理者共に虐待についてははっきりした考え、方針を持っており、身体的・精神的すべての虐待を生じさせないように職員のストレス解消を含め、継続的に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見制度を利用している方が1名おられる。権利擁護について職員が共に学び、活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には当ホームのケアに関する考え方や取り組みをはじめ、GH協会から出ている「利用者の権利・倫理綱領」等を契約書と一緒に渡して不安のないよう十分に理解・納得をして頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員が月に2回来訪しており、利用者が外部の人に思いを話せる機会となっている。利用者や家族が、いつでも要望・不満・苦情を表すことができるよう管理者や職員は柔軟な姿勢を持つようにして、当人のその時々思いや希望などを大切に、運営に反映させるように取り組んでいる。 (外部評価) 毎月の家族への送付書類に手紙や写真を同封したり、季刊誌の「シオンだより」を発行して、利用者の状態や日々の暮らしぶりを定期的に報告している。介護相談員訪問時、同席していた重度の利用者の家族が、水分摂取量について心配している旨を話した。そのことを機に、事業所では、トータル水分摂取量についても把握できるよう、取り組みを始めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のカンファレンスや個人的な意見や提案も検討され、ホーム運営に反映されるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 「地域密着型サービス協会」主催のチャレンジ事例発表会にエントリーし、法人の利用者、職員で雑巾を縫い、地域の保育園や幼稚園等に贈呈することに取り組んだ。発表会では、利用者の様子を動画で流しながら、職員が取り組みの報告を行い、銀賞を受賞した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 実践者研修でアンケートをおこない、左記の事項が実践できるように取り組んでいる。又資格取得を奨励し取得後は資格手当等を含め、向上心を持って働けるよう努めている。勤務形態など相談し働きやすい職場を目指している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人研修をはじめすべての職員が、段階に応じた研修(中予ブロック研修)をしてもらっている。常勤・非常勤問わず研修を受けるためのバックアップや自主的に勉強しやすい環境作りに取り組んでいる。毎年相互研修に参加し取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同業者間との交流はここ一年取組めていないので今後、機会を作りたいと考えている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の状況、不安、要望を把握し安心して暮らせるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や本人の状況など、じっくり話を聴き当ホームではどんな対応ができるのか双方の理解と納得が得られるまで、家族の心情を理解しつつ話し合いをするように努めている。出来る限り柔軟な対応をさせていただいている。遠く離れている家族にも電話をし様子や家族からの相談も受けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や本人が必要としているものを色々な角度から判断して、適切な支援が受けられるよう、その人に合った必要なサービスを提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に時を過ごす家族のような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) それぞれに置かれた家族の思いに寄り添い共感しながら、家族と共に支える介護を目指し取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望に合わせて墓参り、自宅の訪問、友人に会いに行ったり、1人1人の能力に合わせて馴染みの場所や人との関係がとぎれないように支援している。 (外部評価) 自宅に帰って庭の花を摘んだり、池の鯉の様子を確認できるよう、職員が付き添い支援するケースがある。盆や彼岸等、年数回、墓参りができるよう支援しているケースがある。週一回、手作りしたおかず持参で来訪する家族があり、居室で一緒に食事できるよう支援している。利用者は持参したものを食べ、家族は、利用者用の食事を食べて過ごすようだ。利用者には、「明日来ますよ」等と伝えて、楽しみに待てるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係を把握し、より良い関わりがもてるよう見守りや声かけを行っている。孤立しがちな方、不仲な方等は職員がうまく交わる場を設定したりしながら利用者同士の関係作りの支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 亡くなったり、長期入院になったりして退所になられても関係を断ち切らないように、必要に応じて相談や支援を行ってきた。毎年野菜を届けてくれたり、訪問してくれる御家族がいる。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中で職員が、一人一人の思いの把握に努めている。本人の意向を第一にして、自分で決めることができるような声かけをするよう取り組んでいる。意思疎通の困難な方は家族の希望や本人の表情・様子などから把握し、希望に添えるよう努めている。	
			(外部評価) 日常の会話やかかわりの中で得た情報は、センター方式のシートにまとめて蓄積している。「私の姿と気持ちシート」は、中央にその人らしさが解る写真を選んで貼り、本人の言葉で情報を記入している。ターミナルの願いの欄に「最期までここでお願いしたい」と記入している方もいた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅での生活歴を本人や家族等への聞き取りで把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録に一人一人の状態(食事、水分、排泄)や会話等、生活状態がわかるように記録している。本人がよりよく暮らせるために不安や不安定の要因を把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人、ご家族の意向を伺いながら利用者個々の担当者が立案し職員全員で話し合いケアプランを作成している。状況変化があればその都度見直しを行っている。本人が何を求めているかモニタリングにより、一人一人を把握し見直しを行っている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は本人、家族の希望を聞き取り、職員全員で話し合い作成している。日々の介護記録には、状態や会話、支援内容を記入しており、介護計画の内容については「プ」と目印を付け、支援状況を記入している。モニタリングは、毎月、全職員が個々に、計画に沿って○×で行い、6ヶ月毎に介護計画の見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケース記録にケアの実践状況や日々の様子を記録し、気付いたことも記録するようにしている。職員同士も情報を共有しながら、実践や、介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法人内の多機能ホームでのイベントへの参加等、必要に応じ本人、家族の状況や要望を軸に柔軟な対応に取り組んでいる。同じ法人内のG・Hにご主人が入居されているので会いに行ったりしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近くのスーパーへの買い物、行きつけの美容院の利用、幼稚園児との交流等できるだけ豊かな暮らしができるよう支援している。昨年は研修での雑巾プロジェクトで利用者と一緒に手作りの雑巾を幼稚園や保育園にプレゼントした。研修では銀賞を獲得することができた。その後、保育園との交流も深まっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) それぞれの掛かり付け医に定期的に月2回往診してもらっている。又、随時の受診の支援や24時間態勢で診療して頂ける医院との連携もできている。町外の医療機関への受診も基本的には職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 協力医は、24時間連絡ができ、診てもらえるようになっている。利用者の状態によって、病院の送迎を利用してリハビリに通ったり、訪問マッサージを受けている方もいる。治療院の先生に職員ができるマッサージを教えてもらい、ケアの中で採り入れているケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 現在、ホームでは看護師が居ないため、かかりつけ病院の看護師に相談し受診や看護を受けられるように支援してもらっている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 本人・家族が安心して入院生活を送れるよう支援している。又、早期退院に向けて医療機関と話し合い、情報交換を行っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時、及び必要時にターミナルケアに関する指針を文書や口頭で説明し理解を得ると共にその都度話し合いを持ち、柔軟に対応、支援している。医療との連携による数名の看取り経験があり、いずれも自然死を望む御家族からとても感謝されている。	
			(外部評価) 現在、利用者、家族は、「事業所で最期まで過ごす」ことを希望している。この2年間で4名の利用者の看取りを支援した。家族が「最期まで食べさせてほしい」と希望した103歳の方は、食事時間に合わせて家族が訪問して食事介助を行った。お別れの時は、利用者、職員で見送った。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、カンファレンス等で周知徹底を図っている。消防署の協力を得て、救命救急講習会を毎年1回行っている。回を追うごとに実践力が身に付いているように思うが、いざと言うときに備え安全安心に向けた取り組みを一層強化していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年1回消防署の指導の下、避難訓練、消火訓練を実施している。運営推進会議ではホームの見取り図と利用者の身体状況を情報提供し、いざというとき駆けつけてもらえるようお願いしている。自治会の有志の皆さんが避難経路や間取りの下見、避難訓練の様子を見ていただいたりした。自動通報装置と火災報知器を行政の補助で設置している。 (外部評価) 事業所独自でも、夜間を想定した避難訓練を行っている。利用者もできる限り参加し、いざというときに備えている。小学校で行われた地域の合同避難訓練では、消火訓練や避難食の確認、衣服を使用した簡易担架の使い方を習った。食品、水を2～3日分備蓄している。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 法人の理念である「自由と尊厳」を接遇態度において実施した言葉かけや対応に努めている。新人職員も含め今後も職員教育に力を入れて取り組んでいきたい。 (外部評価) 法人代表者は、折りに触れ「声かけが命令口調にならないように」「方言が目上の方を軽視した言い方にならないように」等と、職員に指導している。トイレ介助時、できることは本人が行えるよう支援しており、職員は扉の外で待ち、頃合いを見て声をかけサポートをしている。介助時には、視線を逸らしたり、なるべく正面で向かい合わないよう気を付けて行っている。法人代表者や職員は、利用者それぞれに声を掛けてから隣に座り、視線を合わせて会話をしていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 1人1人の持てる力に合わせて、買い物時の選択、おやつ時の飲み物の選択等、日常生活の中で自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人の体調、ペースに合わせた生活を優先したケアに努めているが、重度化に伴い本人の希望に添えない状況も出てきている。その中でも、少しでも本人らしく生活しているように思っていたりするような支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 1人1人の好みを優先し行きつけの理・美容院へお連れしたりその人らしいおしゃれができるよう支援している。職員がカットするときにも本人の好みの長さを聞き入れたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備やあとかたづけはその時々利用者さんの状態に合わせて臨機応変に対応している。一緒の買い物時に希望をきいたり、食事が楽しめるよう努めている。ゼリーやプリン、ヨーグルトにしたり希望の握り寿司を取ったりしている。	
			(外部評価) 食事は、週4日、調理専門の職員が作り、その他は職員が作っている。利用者と一緒に近くのスーパーに出かけ、好きな食材を買って帰り、食事を作ることもある。調査訪問時の昼食は、数種類のおかずやデザートを小さ目の器に盛り付け、色々な味が楽しめるよう工夫していた。箸がすすまない方には、手前にお皿を動かし、勧めていた。自宅に帰った際、ふきを採ってきて事業所で佃煮を作ってくれる方もある。昼食後、下膳したり、食器洗い、拭きを行う利用者の様子がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量を把握し、1人1人の状態や習慣に応じた支援ができるよう努めている。食事量が減ってきた利用者さんには、かかりつけ医と相談をして栄養補助食品などで補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声かけを行い、自分で行えない利用者さんは職員が手伝いチェック表に記入し確認している。入れ歯の不具合でいやがる方もあるが、御家族や歯科医と相談しながら対処している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、利用者のサインを見逃さないよう努めている。随時トイレ誘導し、経済的負担も減らせるよう工夫しているが、重度化により年々困難になってきている。</p> <p>(外部評価) 重度の方も、日中はトイレで排泄できるよう支援している。居室でポータブルトイレを使用する方は、ふたを開閉する音が聞こえたら、職員が様子をみに行き確認している。トイレの扉には、洋式トイレのイラストと「トイレ」の文字を表示している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 飲食物や運動で薬物に頼らず排便を促したり、水分補給等いろいろ工夫し、自然排便に向けて取り組んでいるが、無理な場合はかかりつけ医と相談しながら下剤の調整を行うなど、支援に努めている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 1人1人の体調に合わせて入浴している。曜日や回数も特に決まりはなく、快く楽しめる入浴を心がけている。</p> <p>(外部評価) 入浴は、午後から希望を聞きながら支援している。重度の方も職員2～3名で介助して湯船で温まれるよう支援している。「バイタルチェック後に入浴」が習慣になっており、利用者の目安になっているようだ。畑仕事した後、シャワーで汗を流せるようすすめることもある。入居間もない頃には、入浴を断るような方もあったが、家事や外出等で張り合いのある生活を支援していくうちに、スムーズな入浴につながった事例がある。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 個々の体調や希望に合わせて安心して休めるように支援している。リビングで職員と一緒にテレビを見たりお茶を飲んだりして眠くなったら居室に戻る方がいたり、自由にしてもらっている。冬場は湯たんぽを使用し、安眠につなげている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬説明書を個別に管理し、全職員がいつでも確認できるようにしている。飲み忘れや誤配がないように声に出して服薬確認し、又症状の変化にすぐ気付けるよう観察を怠らないよう努めている。家族には毎年4月に服用されている処方箋のコピーを送っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人のできることを依頼したり、ゲームや、買い物、ドライブ、外食等楽しみごとや気分転換の支援に努めている。また、四季折々に花の見学に出かけたり、家に帰るなど気晴らしの支援を行っている。月に1回、週刊誌を買いに行くのを楽しみにしている方もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望で高知のコスモスや砥部の梅まつりやいろいろな所にドライブに行っている。観劇、墓参り、寺参り等行きたいところに出かけられるよう支援している。特にサーカスは迫力がありとても喜んでいただけた。以前から希望されている道後温泉めぐりを今後予定している。 (外部評価) 職員は、日常会話の中で利用者の行きたいところを把握し、希望に応じて外出できるよう支援している。「道後めぐりたい」と希望した方には、長時間外出できるよう、又、歩行練習のために普段から散歩や外出の機会を多く持った。一日行程で計画を立て、当日は商店街や道後温泉本館を見学したり、坊っちゃん列車にも乗って楽しめるよう支援した。高知県の坂本龍馬の銅像を見に行ったり、しまなみ海道まで遠出のドライブにも行けるよう支援している。毎年恒例になっている近くの集会所でのお花見時には、握りずしを用意して皆で楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で支払いできる方はして頂き、個々の状況に応じて、支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 当然のこととして対応している。遠方の家族には近況とともに写真を添えて送ったり電話で話したりやりとりできている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家庭的な雰囲気作りに努めている。リビングの外庭に季節の花を植え縁側で日光浴をしたり、庭でおやつを楽しんだりしている。庭にスズメの餌を置き、毎日食べにくるのを楽しみにしている。</p> <p>(外部評価) 玄関周りには色とりどりの季節の花が咲き、畑には茄子、かぼちゃ、ネギ等の野菜を育てている。調査訪問時、畑で収穫していた方が窓越しに大きなにんにくを皆に見せてくれて、中に居る方達から歓声が上がった。天然木を基調とした居間は、吹き抜けで明るく開放的な雰囲気があり、ソファやいすを各所に配置し、一人用のテーブルを移動させて使用している。カウンターや本人専用のスペースで過ごす方もいた。食卓テーブルには、時間を確認できるよう置き時計をいくつか置いていた。職員が自宅から花を摘んで来て、利用者が花を選びながら活けることもある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室で1人で過ごされたり、リビングで話したりテレビを見たりそれぞれ自由に過ごされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者さんの部屋は、利用者さんの状態に応じ洋室、和室を利用できるようにしている。ダンス、テレビ、小物など本人の使い慣れたものを持ち込んでもらうようにしている。家族写真や日記、位牌を持ってきている方もあり、安心して過ごせる場所になっている。</p> <p>(外部評価) 窓からは外の山々の景色がよく見え、季節の移り変わりがよく分かる。使い慣れたダンスや椅子、テレビを持ち込んでいる方がいる。お位牌を持ち込んでいる方には、お菓子を供えたり、水やご飯を替えることをサポートしている。毎月雑誌を購入して読む方は、本棚にきれいに整理している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下やトイレに手すりを付け、自分の力で立位するようになっている。玄関は座って靴が履けるようになっており、自分のできることやわかることは極力見守りで支援するよう努めている。</p>	